

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 28 年度

事業所番号	2773302159		
法人名	株式会社 小池介護サービス		
事業所名	グループホーム天下茶屋		
所在地	大阪市西成区天下茶屋2-18-32		
自己評価作成日	平成 28年 3月 17日	評価結果市町村受理日	平成 28年 7月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2773302159-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 28年 6月 8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が楽しく生活でき、家族様からは安心していただけるようなホーム作りを心がけています。ホーム内は明るく、清潔を保ち居心地がよい環境をつくるよう職員間で話し合っています。研修等行いケアの質の向上にも努めています。一人ひとりの生活のペースを尊重し、柔軟な対応ができるよう心がけています。医療・介護の連携を行い緊急時も適切な対応をしています。ショート利用でよかったと言っただけ入居につながっています。また利用者様の家族様他からの紹介もあり入居されています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に貢献する医療法人が地域住民からの要請に応え開設したグループホームです。ホームは駅から近く、静かな住宅街の中に建てられています。玄関は道路から奥まった所にあり、前の広い駐車場スペースは、利用者の外気浴や時には食事の場所として活用しています。職員は、「みんなが自由に」「利用者一人ひとりの楽しみを尊重」「家族みたいに暮らしてもらう」「利用者が主体の生活」がグループホームの姿と考え、その人らしい暮らしを支援しています。ホームでは外出や行事にも力を入れており、日帰り旅行や地域の花見、希望の場所への外出や外食等の機会が多あります。また、近隣への散歩は日常的なものになっています。職員の離職者も少なく、開設時から勤務している職員が多く、利用者の馴染みと安心に繋がっています。「特別に構えず、普通に暮らしてもらっていることが私たちの自慢」という管理者・職員が支える暮らしは、温かいほのぼのとした暮らしになっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>理念を明示し、管理者・職員はミーティングや業務を通し、方針を共有しケアに繁栄させるよう話し合っています。</p>	<p>「私たちはいつも心がけています『笑顔がいっぱいのホーム』『主体性を尊重し、その人らしい生活を送れるホーム』『地域の方と共に家庭的な安らぎのある生活をしていただきます』を、法人・事業所共通の理念として掲げています。理念は、玄関や事務室に掲示し、家族や地域住民にも示しています。職員は理念をよく理解し、その人らしい生活を送るための支援の実践に繋がっています。</p>	<p>今後は、理念のさらなる実践に向けて、具体的な目標等を検討されてはいかがでしょうか。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会議を通じ、地域との交流を深め、自治会に加入し地域の行事等に参加し、ホームの行事にも参加していただき地域とのつながりを大切にしています。	地域の自治会に、利用者一人ひとりが1世帯として加入し、管理者が班長を担っています。地域住民からの要請で設立された経緯もあり、地域との関係は深く、交流は盛んです。桜を見る会・夏祭り等、地域の行事には積極的に参加しています。社会福祉会館で開催される「ふれあい喫茶」は、地域住民との交流の機会となっています。地域の行事であるクリーン作戦に参加し、段ボールの回収にも協力しています。ホームで開催する夏祭りには地域住民も参加しています。散歩の途中で会う近所の方々とも顔なじみになり、花をいただいたりする関係になっています。職員のユニホームも地域に定着してきました。今年、「事業所と地域とのつきあい」を課題とし、地域とのさらなる連携作りに取り組んでいく予定です。	ホーム入口に、介護及び認知症に関する相談のポスターを掲示し、地域住民が気軽に相談に来られるよう働きかけてはいかがでしょうか。 認知症ケアの実践の中で積み上げてきた知識や技術を地域に還元し、今後より地域から頼られる事業所となることが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	自治会の定例会や行事の参加、運営推進会議等で、地域の方へ認知症の方の理解を深めていただけるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>おおむね2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、ホームの運営状況・行事・職員の研修の説明や情報の交換、意見・要望を聴きサービスの向上に努めています。</p>	<p>地域住民代表、地域包括支援センター職員、利用者、家族の参加で、運営推進会議を2カ月に1回開催しています。会議では、運営状況の報告を行い、参加者から評価や助言を得て、事業所の運営に活かしています。議事録は職員には回覧し、また、玄関にも設置し、家族に見てもらえる工夫をしています。</p> <p>地域包括支援センター職員から、事故報告とヒヤリハットの記録様式を分けたほうが良いとの助言があり、記録を分けた事例があります。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>区の担当職員とは相談や情報の交換を行い、実情を把握して頂き、ご意見をいただけるよう協力関係を築いています。</p>	<p>区のケースワーカーやあんしんサポート事業(日常生活自立支援事業)の担当者も度々訪問があり、連携を図っています。</p> <p>活動が休止していた区のグループホーム事業所連絡会も活動を再開することになり、情報の交換と連携を深めていく予定です。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束ゼロへ取り組むための外部・内部研修に参加し、外部研修後は受講者が指導者となり内部研修を行い管理者・全職員が身体拘束をしないケアとは何かを正しく理解できるよう取り組んでいます。</p>	<p>身体拘束廃止研修を実施し、「利用者の立場にたった日常生活を組み立てられているか」「利用者の視点にたった介護ができているか」を確認しています。玄関の鍵は内鍵で、内側から開錠が可能です。エレベーターは、利用者も自由に乗り降りすることができます。最近ニュースになった他県での高齢者虐待についても職員間で話し合い、ストレスをためない職場環境づくりを確認しました。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止研修の参加、研修を行い虐待とは何かを学び、日々のケアの中で管理者・職員が言葉かけを行える関係を築き、職員のストレスケアにも努め、虐待がおきない環境作りを職員間で話し合っています。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度の活用や安心サポート利用の必要性を話し合い活用できるよう支援しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>制約時・解約時には十分な説明を行い利用者様・家族様にご理解・納得していただき、安心して入居していただけるよう努めています。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見箱の設置・運営推進会議等で利用者様・家族様のご意見・要望を伺うよう努めています。定期的にご利用者様の情報提供者を送付し、ご意見・要望をうかがい家族様の思い、希望等表せるよう対応しています。</p>	<p>家族の面会時には、利用者の様子を報告し、その都度、意見や要望を聞いています。3ヵ月毎に、ホームでの生活状況が伝わる写真入りの「スマイルだより」と共に、利用者情報を送り、家族からの返信を通して意見をもらえるようにしています。</p> <p>利用者から、フロア内で職員の靴音が耳障りとの意見が出て、静かに歩くように気をつけることを話し合いました。家族からの意見では、子供用のスリッパを備えて欲しいと希望があり、実現することができました。</p>	<p>家族の意見・要望を更に有効にするため、テーマを絞リアンケートを実施されてはいかがでしょうか。</p> <p>その際、ホームの取り組み状況での良いところ、評価できる点も同時に確認されてはいかがでしょうか。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設改善会議・職員会議等で職員からの意見・要望を聞きサービスの向上に反映させています。今年度からは各施設の主任が参加する主任会議を開催し、各主任から上がった意見を聞きよりよい施設づくりに反映させる。	会議は、フロア会議、職員会議、施設改善会議があり、それぞれの会議の中で、意見を出し合っています。今年度からは、法人内事業所の主任会議を開催し、サービス向上に向けて話し合っています。 職員が定着し、安定した働きやすい職場環境です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働けるような体制を作り、非常勤職員もスキルアップできる研修への参加等でやりがいのある環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の自主的な研修の参加に配慮し、研修を受ける機会をつくり全職員がスキルアップできるよう努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互研修に参加できる機会をつくり自己のサービス向上に反映しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問を行い、情報の収集や本人様の様子、要望等を聞き入居後安心して生活して頂けるよう関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学に来て頂いたり、事前に不安や要望を聞き、よりよいサービスができるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様とご家族様の意向をしっかりと把握し、必要とされているサービスを見極め、他のサービスの利用も含めた対応ができるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らすという意識を持ち、教え合ったり励まし合ったり、利用者様の得意とする事を引き出しながら生活を共にし、信頼関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様・家族様の思いを職員が受け止め、家族様にも一緒に行事に参加して頂き共に支え合う関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の面会もあり、馴染の関係が途切れないよう支援し、面会時はゆっくり過ごせるような環境作りを心がけています。	区内から入居している利用者が多く、馴染みの友人・知人が訪問しています。散歩には馴染みの商店街や知り合いの店に行き、お店の方と挨拶や声かけをする利用者もいます。毎日食材を購入するスーパーや八百屋の人とも馴染みになっています。 入居後の新たな馴染みの関係も大切に支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様のできること、できないことを把握しその方が力を発揮できるよう支援しています。レクリエーションや散歩、外出支援等で利用者様同士が関われるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても近隣へ来られた際は気軽に来所していただけるよう声かけをしています。また退所後も相談等あれば必要な支援ができるよう対応しています。退所された方、入所中の方から他利用者様の入所相談も受け支援につなげています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の日々の言動・行動・表情を観察し、その中で思いや希望の把握に努め、家族様からも情報を聞くようになっています。	認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式の様式を使い、利用者の生活歴・家族・若い頃好きだった事・家族から望まれる事等、丁寧に聞き取り、その人らしい生活を送るための支援に活かしています。職員は、その場・その時の利用者の感情や意思を尊重しようと、日常のケアの中で把握できるように心がけています。日常の関わりの中での気づきや発見は、申し送り表に記録し、共有しています。毎月のフロアミーティングでは、全員のカンファレンスを行い、利用者の状況を共有しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしの把握は、本人様・家族様から聞き、利用者様の趣味・嗜好が尊重できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりが自分のペースで生活できるよう支援し、その日の心身状態を観察し職員間で情報を共有し把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様との日々の関わりの中で、本人様・家族様の思い、医師や看護師の意見を聞き現状に即した介護計画の作成を心がけています。	利用者・家族の思いや希望を尊重した介護計画を作成しています。介護計画は、長期目標1年、短期目標6か月として、3か月毎にモニタリングを行っています。生活記録に介護計画のケア内容が記入され、職員全員が統一したケアが提供できるようになっています。計画作成担当者は、「利用者のニーズに沿える介護計画作成」を心がけています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別に記録し、排泄・水分・バイタルチェック表等で正確に記録し、職員間で共有しながら実践し、介護計画の見直しに活かしています。フロアー会議では個々のケアの実践に基づき気づきをもつよう共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制により健康管理し、緊急時には柔軟な対応ができるよう努めています。以前から通院されている病院等へは利用者様、家族様の意向を聞きできる限りのサービスが行えるよう支援しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通し、近隣の情報など交換し、地域の行事等に参加し交流しています。近隣スーパーへの買い物・散髪の同行等も行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、母体病院の往診、週1回、医療連携看護師の訪問、週1回の歯科往診等を受けています。利用者様、家族様の希望で他病院の通院ができるよう支援しています。	本人や家族の希望を尊重し、入居以前からのかかりつけ医に受診している利用者もいます。 ホームでは、母体法人の病院を協力病院とし、月2回の往診、週1回の訪問看護を受け、24時間医療連携によるオンコール体制を整えています。 母体法人の病院は、日曜日も受診可能で、母体法人との連携は、利用者、家族、職員の安心に繋がっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体病院の職員として配置されている看護師を通じ日常の体調の変化、近況の様子等伝え、一人ひとりの健康管理や医療との連携につなげています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の病院へは医療面の情報だけでなく、日常的な生活の状況等も伝え安心して治療が受けられるよう支援し、入院中も早期に退院できるよう病院関係者と連携しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>利用者様や家族様には看取りに対する指針を作成、説明し、同意書をとっています。終末期のあり方については、利用者様、家族様の意向を尊重し医療関係者、職員と共にチームで支え取り組んでいく予定です。</p> <p>看取りの際に、家族様が宿泊できる簡易ベットも準備しています。</p>	<p>重度化・終末期の介護に関して「看取り介護が生じた場合に関する指針」を作成し、家族にも示し説明しています。</p> <p>これまでホームでの看取りの事例はありませんが、看取りケアに備えて、研修を実施しています。家族が宿泊できる部屋も整えています。</p> <p>緊急時には、かかりつけ医や医療連携の医師と相談の上、利用者・家族の意向を踏まえて対応しています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変や事故発生時に備え、職員は研修等で初期対応ができるよう訓練しています。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害時マニュアルを作成し、年2回自主自衛消防訓練を行っています。内1回は消防士立会いのもと訓練しています。非常食、飲料水、非常持ち出し袋等も準備し災害時に備えています。</p> <p>近隣住宅の災害時には、一時避難場所として利用していただくよう自治会長と連携しています。</p>	<p>災害時マニュアルを作成し、年2回避難訓練を実施しています。内1回は消防署の指導のもと訓練を行っています。ホームは緊急時の近隣住民の避難場所となっています。コンセントからの漏電を防ぐため、清掃時にはコンセントのチェックも行っています。</p> <p>非常災害時の食料品の備蓄は、浸水を想定し、2階に準備しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の気持ちを尊重し、さりげない声かけ、言葉かけを職員は心がけ、プライバシーの確保に注意し、記録・個人情報の取り扱い等の徹底に努めています。	プライバシーに関する研修を実施し、入浴介助や排泄介助等、介護の場面でのプライバシー保護についても確認しています。管理者は、日常の中での利用者の尊厳に配慮したケアについて、「排泄介助時は、居室の窓のカーテンも閉めるように」等、細かく指導しています。同性介助にも配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で、思いや希望を探り、一人ひとりが自分で決定できるような場面を提供するよう心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムに合わせた支援ができるよう取り組み、その日の体調や気持ちに合わせた柔軟な対応をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の趣味・趣向を理解し、清潔に配慮しながらおしゃれを楽しめるよう支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は3食ホームで作り、利用者様の要望を取り入れ、旬の食材や季節の行事等を取り入れたメニュー作りをしています。調理、盛り付けや配膳、片付け等も一緒に行いながら食を楽しんで頂けるよう支援しています。	食事は3食ともホームで作っています。献立は、利用者に食べたいものを聞きながら作ります。食事の下ごしらえ、準備、盛り付け、後片付け等、できることは利用者にも参加してもらっています。食材は、散歩を兼ねて買い物をします。庭の菜園で採れた野菜も使っています。職員は同じ食事を一緒に食べながら、さりげなくサポートしています。食後はコーヒーを飲み、ゆったりとした食事の時間を楽しんでいます。外食やおやつ作りも楽しんでいます。天気の良い日は、お弁当を作り、ホームの広い駐車場を利用して、屋外での昼食を楽しむこともあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 個々に食事量・水分量を記録し、一人食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に食事量・水分量を記録し、一人ひとりの状態を把握し、むせ込みがある方にはトロミ水やお茶ゼリー等に対応し、野菜を多く取り入れ食べて頂ける献立を提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回の訪問歯科診療の指導により個々の状態を把握し、毎食後の口腔ケアを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけ、誘導を行い、オムツ対応の利用者様も日中はトイレで排泄ができるよう支援しています。	排泄チェック表を作成して各利用者の水分摂取量も併せて記入しています。職員は利用者一人ひとりの排泄リズムを把握して、日中は全利用者にさり気なく声掛けをしてトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を支援しています。入居時はおむつを使用していた利用者が今では布パンツで一日中過ごし、一人でトイレでの排泄ができるようになった方も複数います。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄記録を正確に把握し、便秘の予防に努め、野菜他自然排便ができる食材を提供し、毎日定時にテレビ体操を行い運動不足解消をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>一人ひとり希望を聞き、時間や気分に配慮し入浴が楽しめるよう支援しています。入浴剤や季節風呂等で入浴拒否される方への工夫をしています。</p>	<p>3日に1回の入浴を基本とし、入浴チェック表を作成して利用者の入浴状況を把握しています。入浴時は常に職員は同性介助で行っています。利用者が希望すれば毎日の入浴も可能です。また、夏場の暑い日や外出時に汗をかいた時等は状況に応じてシャワー浴も行っています。職員は利用者が入浴を楽しむために一人ひとりの希望を聞いたり、入浴剤等を使用して喜ばれています。好みのシャンプーを使っている利用者もいます。重度になった利用者の入浴は職員二人介助で行っています。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>個々の様子を常に観察し、その時の状態を見て安心して休息をとって頂けるよう支援しています。</p>		
47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬の目的・副作用は医療連携医師・看護師から指導を受け、服薬チェック表を活用し、誤薬がないよう日付・名前等、確認し服薬していただいています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴・趣味・得意とする事を把握し、ホーム内での役割を作り活性できるよう支援しています。レクリエーション・外出支援・行事等で気分転換していただいています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に添い散歩や近隣への買い物同行支援をしています。 4施設合同遠足には家族様と一緒に参加して頂ける機会を作っています。	日常的に天気の良い日はホームの近くへ散歩に出かけています。近くには古い町並みや細い路地が続き、近隣住民と挨拶を交わしながら季節を感じています。天候が悪い日や体調がすぐれないときには、前庭の広い駐車場で季節の花を眺めながら外気浴を楽しみます。利用者の外出の機会が多く、季節ごとに近隣のお花見に家族を誘って出かけたり、外食にも行きます。地域の行事にも参加しています。4施設合同遠足には家族も参加して共に楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望の店へ買い物に同行し、清算ができるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族様への電話・手紙の取次ぎや友人様との交流がとぎれないよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム駐車場内は広いスペースがあり、バーベキュー等、屋外での食事や行事が楽しめる場があります。庭には野菜・花を植え収穫や鑑賞を楽しんでいます。共有スペースは明るく居心地のよいよう清潔で家庭的な雰囲気ができるよう工夫しています。	ホームの前庭は広く、駐車場としても利用していますが、季節の花が咲いて利用者の気分転換の場にもなっています。天気の良い日には庭でお弁当やおやつを食べます。庭の片隅には季節の野菜を育てて利用者は成長を楽しんでいます。ホーム内の玄関、ロビーや廊下は広くて明るく、ロビーにはソファが設置されています。玄関には利用者の手型や外出時の写真が飾られ、家族用に利用者のアルバムも用意しています。利用者は落ち着いた雰囲気の中で自由に過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを設置し、くつろげる空間を作っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者様が使い慣れた家具や小物・写真が置かれ、以前から使用されている物の中で安心し、居心地がよいよう生活されています。家族様が訪問されてもくつろいでいただけるよう配慮しています。	居室には利用者が使い慣れた家具や仏壇などが置かれて落ち着いた雰囲気です。居室には、利用者が若い頃、ギター流しとして花形だった当時の写真がギターのそばに飾られていたり、趣味の折り鶴を折って部屋中に飾って楽しんでいる利用者もいます。また、阪神タイガースファンの利用者はそのカレンダーを壁に貼ったり、手作り品や家族写真を飾る等、個性あふれる居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動できるよう手すりの設置、トイレ・居室はわかりやすい工夫をしています。		